

# 平成24年度 教育委員会評価について

平成 26 年 2 月

雲南市教育委員会

## 平成24年度重点施策別評価

1. 学校の組織力の向上と教育内容・方法の充実により、子どもたちの「社会を生きぬく力」を育む。

(1) 学校経営ビジョンの確立と学校組織マネジメントの実施

(学校評価)

① 目的・意図

校長が特色ある学校経営ビジョンを明確にし、「夢」発見プログラムが目指す「生きる力」の醸成の推進を図る。

② 目標達成度(取組事業)

- ・校長の経営ビジョンの明確化および協力依頼(教職員・保護者・地域に対して)
- ・自主・自律の学校経営・運営による学校の特色づくり(学校「夢」プランの実施)
- ・地域の中の小中学校の位置づけおよび果たす役割の明確化(学園構想の推進)
- ・学校評価・教職員評価システムの効果的活用(評価項目に「夢」発見プログラムを加える)
- ・全教職員による組織目標の確立と明確化
- ・PDCAサイクルの重視・・・より効率的な学校経営
- ・校長の代表との定期的な懇談会(トップミーティング)の設置

③ 今後の課題

- ・校長の経営方針を全職員が共通課題としていかなければならない。
- ・転入教職員への「夢」発見プログラムの周知を図らなければならない。

(2) 知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」の定着

(学力調査、アンケート QU)

① 目的・意図

平成24年度より中学校学習指導要領が完全実施される。新指導要領の趣旨に沿った充実を図る。また、確かな学力の定着を図るために学力調査を実施する。

② 目標達成度(取組事業)

- ・アンケート QU の2年生以上の2回実施
- ・悉皆による学力調査の実施
- ・雲南市教育研究会との連携による講演会、研修会の開催
- ・学校独自の学力向上策の実施

③ 今後の課題

雲南市教育研究会と連携し、今後研修会の企画等の充実をさらに進める。

(3) 豊かな心とともに規範意識の昂揚を図る。

(子どもの活動支援、学校司書配置)

① 目的・意図

地域、学校、保護者が学校、児童・生徒を支援し心豊かな子どもの育成をめざす。

② 目標達成度(取組事業)

- ・市内全小中学校への学校司書等の配置
- ・地域、保護者が企画立案する子ども育成事業への支援

### ③今後の課題

県事業を財源とする事業の上に地域で個々の事業を展開していただいている。県事業の継続を望む。

(ふるさと教育)

#### ①目的・意図

子どもたちの知的好奇心や学習への関心・意欲が高まる。

#### ②目標達成度(取組事業)

それぞれの小中学校がそれぞれの地域実態に即し、地域の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと教育を実施し、子どもたちがふるさとを愛し、地域を大切に思う心(郷土愛・誇り)を育てている。また、子どもたちが、ふるさとの良さに気付くことで、大人たちもこれまで以上に地元に対して誇りや愛着をもつようになり、協力者が増えてきていることが、学校関係者から報告されている。また、こうした取り組みもあり学校が楽しいと答えた子供の割合は小中学校とも100%となった。

### ③今後の課題

県補助金を財源としてしており、この補助金のあり方により事業が左右される。

## (4)特別な支援を必要とする子どもや不登校の子どもたちの学びを支える環境整備

(就学指導委員会、SSW活用、学校支援員配置、日本語指導員配置、不登校支援・対策)

#### ①目的・意図

支援を必要とする児童生徒が学校生活を不安なく過ごせる学校環境と、保護者が安心して児童生徒を送り出すことができる学級経営の実現を目指す。

#### ②目標達成度(取組事業)

- ・支援員・介助員・日本語指導員の幼稚園・学校配置
- ・平成24年度・・・支援員(36名)介助員(4名)日本語指導員(3名)配置
- ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の見直し・作成・活用
- ・就学指導委員会の充実
- ・特別支援連携協議会の充実
- ・通級指導教室の増設(大東小学校)
- ・スクールソーシャルワーカーの配置
- ・特別支援関係
  - スクールソーシャルワーカー・指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問
  - 県立養護学校および関係諸機関との連携
- ・生徒指導関係
  - スクールソーシャルワーカー・指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問
  - 児童相談所、教育支援センター、相談センター、警察等、関係諸機関との連携
  - 不登校対策・・・保護者対応相談会の開催

### ③今後の課題

各施設、機関へのスクールソーシャルワーカーの周知と積極的な指導主事・主任指導主事の幼稚園・学校訪問を展開する。

不登校児童生徒の個に応じた対応の推進。

(不登校支援・対策・・・社会教育)

①目的・意図

不登校児童・生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、学校教育、社会教育の協働による体験活動を充実させる。

②目標達成度(取組事業)

自然体験活動・保育所訪問等4回実施 述べ21人が参加。平成24年度は学校担任と社会教育主事、社会教育コーディネーターが連携し対象生徒への声掛け、担任への報告(毎回)を行った。参加児童生徒7名のうち2名が学校復帰の兆候を示した。

③今後の課題

学校家庭とより連携を強化し、参加者の拡大を図る。参加者が広域化しており移動手段の確保が大きな課題である

(5)人権を尊重する教育推進のための基盤整備

(人権・同和教育研修)

①目的・意図

人権教育を単なる知識の伝達にとどめず、児童生徒が思いやりの心やお互いの人格を尊重する心を養うよう取組を進める。

②目標達成度(取組事業)

年間を通して教職員研修を開催し、参加者数は当初の目標を達成した。

- ・転入教職員研修 45名
- ・教職員懇話会 50名
- ・教職員「同和問題」研修会 153名
- ・公開授業参観 教育委員など10名が参加

③今後の課題

人権問題は、いじめ、児童への虐待、インターネット環境の変化など複雑・多様化しており、関係機関と連携して教育・啓発を推進する必要がある。

2. 保・幼・小・中の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。

(1)各中学校区における保幼・小・中の連携を図る

(保・幼・小・中管理職会議)

①目的・意図

教育委員会が策定している「夢」発見プログラムを推進するため、中学校区における保・幼・小・中が一貫した学園構想をめざす。

②目標達成度(取組事業)

- ・中学校区における組織の立ち上げ
- ・中学校区ごとの管理職会の充実
- ・校種や学校の枠を超えた積極的な研修や情報交換の場の設定(公開授業の実施)
- ・学校間の交流学习の積極的实施(6年生交流)
- ・保幼・小・中の一貫性のある教育の積極的推進

### ③今後の課題

今後一層の交流(授業参観等)の必要がある。

## (2)「夢」発見プログラムの積極的推進と充実

(「夢」発見プログラム、学校夢プラン)

### ①目的・意図

雲南省の独自プログラムである「夢」発見プログラムを実施し、自己肯定感の醸成、ふるさとへの愛着や誇りを持てる雲南の子どもを育てる。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・現在ある義務教育版の「夢」発見プログラムの見直しを行う。シート1、シート2の見直しをする。
- ・学校夢プラン実施の2年目として実施する。
- ・「夢」発見ウィークの全中学校で引き続き実施する。
- ・ガタリ場を希望する中学校で実施

### ③今後の課題

本年度見直しを行う「夢」発見プログラムの周知を行う。

(平和賞、キョロパス、幸雲南塾 in さんべ)

### ①目的・意図

ふるさとへの愛着や誇りを育てるため、地域とのつながりを活かした教育を小中一貫で展開し、自分に自信を持ち自己肯定感を高め、将来への夢や高い目標を育む。

### ②目標達成度(取組事業)

平和賞については、マスコミにも多く取り上げられ博士の顕彰事業としての知名度や平和都市宣言の観点からは効果が高いと考えるが、夢発見プログラムの一環としての位置づけの観点からすれば小6の児童に理解される内容の提供であるか再度検討が必要。

キョロパスについては、事業も浸透し、保護者アンケートでもおおむね好評を得ている。購買者率も年々上昇し17.1%となった。幸雲南塾 in 三瓶については中学生の参加者が117名と全体の29.9%参加者の97%が参加して満足したまらず満足したと事後アンケートで回答している。また高校生大学生が多く参加し、中学生とのななめの関係が構築できた。

### ③今後の課題

平和賞のあり方については夢発見プログラムの位置づけからすれば検討が必要である。

## (3)幼児期の教育の充実と小学校教育との接続重視

(預かり保育、中国地区国公立幼稚園連盟研究大会)

### ①目的・意図

幼児教育の充実を図るため、市内の小学校就学前までの全ての子どもが適切な幼児教育を受けることが出来るような環境を整え、これからの雲南省の幼児教育のあり方を総合的に構築する。

### ②目標達成度(取組事業)

- ・幼稚園における預かり保育の試行・実施
- ・木次幼稚園・木次保育園において認定こども園開設・実施
- ・夢発見プログラム幼児期版の推進
- ・保幼における「夢」発見プログラム実践事例集の作成配布

### ③今後の課題

就学前の人格形成が、個人の将来に影響を大きく及ぼすことから、幼児期の適切な保育・教育が重要となっている。将来を担う子どもたちに対し、保護者・公共団体のみならず地域を挙げての支援が必要である。

「夢」発見プログラムが保幼小中と、より系統だったものとなったことを受け、就学前と義務教育との連携をさらに密なものにしていかなければならない。

## 3. 学校・家庭・地域・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。

### (1) 学社協働による「教育フェスティバル 2012」の開催

(教育フェスタ)

#### ①目的・意図

「早寝早起き朝ごはんフォーラム」として、本年度の教育実践と子どもの生活リズムの向上について各分野の関係者が一同に会し、主に「体験活動」「食事」「あそびと運動」「メディア」の関わりについて議論する場とした。

#### ②目標達成度(取組事業)

10月20日～21日に三刀屋中学校と加茂文化ホール「ラメール」を会場として開催し、「生活実態調査と学力調査結果との関連」「地域におけるキャリア教育と中高生の可能性について」のキーノートスピーチを始めとして、熟議、親子で運動パフォーマンス、円卓会議、ゴザ会議、実践報告、サンライズ・フォーラムを開催した。

参加者総数は1,226人で、それぞれ熱心なフォーラム、体験、傍聴などが行われた。また、「うんなん幸あり月」の一環としても位置づけ、雲南ブランド化への一歩ともなった。

#### ③今後の課題

事前の準備、周知が遅いなど、校長協議会等から意見をいただいた。今後の企画としては、早期の計画・実行が必要である。

2日間のボリュームとしては多く感じられ、同時開催のフォーラムについて参加できないという声もいただいた。

「うんなん幸あり月」としての連携、日程調整などについて綿密な協議が必要である。

### (2) 学校・家庭・地域の連携・協力の要であるコーディネーターシステムを充実させる

(コーディネーター制度、学校支援地域本部、放課後子どもプラン)

#### ①目的・意図

社会でたくましく生き抜く力を身につける。また、家庭地域の教育力を高める。

#### ②目標達成度(取組事業)

コーディネーター制度については各中学校に7名の教育支援コーディネーター(教育委員会職員)を配置、市内拠点小学校へ7名の社会教育コーディネーター(教育委員会職員4名、嘱託職員3名)すべての小学校へ教育支援コーディネーターを配置19校

#### ③今後の課題

コーディネーター制度＝コーディネーター体制の維持

学校支援地域本部、放課後子どもプラン＝国県市3者より財源を負担しており今後の国の動向により大きく事業に影響がある。

### (3) 学校・家庭・地域の連携による「ふるまい向上」運動の推進

#### (「ふるまい向上」運動)

##### ① 目的・意図

教育委員会と地域自主組織との連携により「ふるまい向上」運動の支援を行い、これを通して家庭・地域の教育力の向上を目指す。

##### ② 目標達成度(取組事業)

県の補助金を活用し、木次小PTAと木次地区地域自主組織が連携し研修会を開催した。また、社会教育課で地域自主組織を回り地域での「ふるまい向上」運動の必要性をお話し、それぞれの地域自主組織で実施されている「ふるまい向上」運動の事例集を作成した。

##### ③ 今後の課題

地域と家庭との関係が課題であり、家庭への啓発が必要である。

### (4) 家庭・地域の教育力の向上を図る(学校支援・家庭教育支援)

#### (親学プログラム、情報モラル教育、地域自主組織等との連携)

##### ① 目的・意図

地域・家庭の教育力を高め青少年の健やかな育成を図る。

##### ② 目標達成度(取組事業)

PTA研修会を中心に8回の親学プログラムを開催(前年6回)した。また、進行役の親学ファシリテーターも市内で出雲部の養成講座を実施したこともあり、20人(前年12人)と増加した。地域自主組織等との連携においては年2回の社会教育課による定期的な訪問に併せ、円卓会議を実施し「雲南市の考える生涯学習と社会教育」についての理解を得るよう努めた。学校・地域自主組織・地域づくり担当職員・社会教育コーディネーターの連携により地域による子どものための体験活動等の事業が増加した。

##### ③ 今後の課題

親学プログラムの開催増えていくが、ファシリテーターが全県的に不足している。地域自主組織間で取り組みについて差がある。

## 4. 安全・安心な教育環境の実現と健康で文化的な環境の整備

### (1) 安全・安心な教育環境の整備

#### (小・中学校耐震化)

##### ① 目的・意図

学校施設の耐震化、安全で安心な学習環境の確保が学校施設整備の最重要課題として位置づけ早期完了を図る。

##### ② 目標達成度(取組事業)

木次小学校校舎、鍋山小学校校舎、加茂中学校校舎、木次中学校校舎の耐震補強工事を夏季休業中を中心として実施した。また、大東小学校校舎、阿用小学校校舎、久野小学校校舎、久野小学校屋内運動場、斐伊小学校屋内運動場、の耐震補強設計を完了した。平成24年度末の耐震化率は93.0%となった。

##### ③ 今後の課題

平成25年度が市内小中学校施設の耐震補強工事の終了年度となるため、予定どおり進める必

要がある。

(学校適正規模・適正配置)

①目的・意図

学校適正規模適正配置基本計画に基づく地元協議をおこない、学校の適正規模適正配置をめざす。

②目標達成度(取組事業)

中野小学校の閉校に伴う地元協議を進め、3月24日に閉校式を挙行。

久野小学校、温泉小学校、温泉幼稚園について、地元協議を進め、平成25年度末に閉校することを決定。

③今後の課題

飯石幼稚園、飯石小学校について、引き続き地元協議を進める。

(2)豊かな歴史と文化を生かした教育環境の整備

(菅谷たたら山内保存修理、加茂岩倉遺跡ガイドンス)

①目的・意図

雲南市を代表する遺跡の整備活用を図ることにより、地域の伝統文化や歴史遺産に関心を持ち、郷土への誇りと愛着の心を培うとともに、次世代に伝えていく。

②目標達成度(取組事業)

・菅谷たたら山内保存修理事業

全体事業計画に基づき、高殿・元小屋の解体工事などを行った。

・加茂岩倉遺跡周辺整備事業

事業の完結をめざして、関係事業者(地権者)との協議を行ったが継続中である。

③今後の課題

学校教育においても歴史資料、学習教材として活用を進め、郷土の文化遺産について理解、関心を深めるとともに保存継承、後継者の育成を図っていく必要がある。

(3)健康・体力作りの推進とそのための環境や条件の整備

(学校給食)

①目的・意図

市内小中学校及び幼稚園等に安全安心でおいしく魅力ある給食を提供することにより、成長期にある児童生徒、園児の心身の健全な育成と食育につなげる。

②目標達成度(取組事業)

市内児童生徒、園児、教職員約4,200人を対象に742,631食の給食を提供した。

③今後の課題

木次、三刀屋の給食センターについて、施設・設備の老朽化への対応が必要であり、さらに、少子化が進んでいることを踏まえた施設再編・統合を進める必要がある。

(総合型スポーツクラブ)

①目的・意図

スポーツ基本法の制定という国の流れを受け止め、幼児期から高齢者までの運動の機会を確保する。

②目標達成度(取組事業)

幼児期の運動プログラムについて学校教育課と連携し策定をした。

体育指導委員をスポーツ推進委員に改め、指導のみならず地域スポーツ推進のコーディネーターの役割を職務に追加した。

③今後の課題

総合型スポーツクラブの運営、地域人材の高齢化